

感染症発生動向調査委員会報告 6月

今月のトピックス

- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が高めです。
- 水痘と流行性耳下腺炎は、過去5年間に比べて高めに推移しています。
- 伝染性紅斑が高めです。
- ヘルパンギーナが高めです。

平成22年5月24日から6月20日まで(平成22年第21週から第24週まで。ただし、性感染症については平成22年5月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成22年 週 - 月日対照表

第21週	5月24～30日
第22週	5月31日～6月6日
第23週	6月7～13日
第24週	6月14～20日

全数把握疾患

< 腸管出血性大腸菌感染症 >

O26の2例の報告がありました。家族内事例で、自宅での肉の加熱不十分が疑われます。肉類は十分な加熱を心がけましょう。発生時の対応につきましてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所HP http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/rinji/inf_c_o157_guide.html

< デング熱 >

インドネシアからの帰国者に1例見られました。同行者の感染は認められていません。

< 麻疹 >

2010年6月は3例の報告がありました。ワクチン接種歴があったのは1例だけでした。すべて孤発例であり、周囲への感染は認められていません。

(日本は、2008年～2012年の5年間で、麻疹排除を目指します)

風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握
1歳および就学前1年間の、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種の徹底
5年間に限り、中1及び高3相当の年齢の者への定期接種を実施

国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html> より

< 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 >

2例の報告がありました。A群とG群でした。今年に入って5例目の報告です。昨年の報告は1例のみでした。当疾患は、約30%が死亡している極めて致死性の高い疾患です。詳しくはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所HP http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k02_g2/k02_46/k02_46.html

< 破傷風 >

1例の報告が見られました。66歳の方です。転倒による外傷が原因と見られています。全国では年間100人程度報告され、5月から10月といった野外活動が多くなる時期に増加しています。全国で2008年に行われた破傷風毒素抗体の保有状況では、60歳代以上では保有率11%と極めて低く、5年後の次の調査結果が待たれる状況です。

臨床症状や所見から破傷風と診断した場合は7日以内の届出が必要です。破傷風につきましては、こちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所 HP <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/tetanus1.html>

国立感染症研究所 HP <http://idsc.nih.go.jp/iasr/30/349/tpc349-j.html>

定点把握疾患

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第24週は定点あたり2.94でした。この時期では2008年について高く報告されています。

行政区別では、瀬谷区が16.00、港北区が9.13、都筑区7.00と高めです。全国では1.75、神奈川県域(横浜、川崎、相模原を除く。以下県域)1.69、川崎市2.67、東京都1.85です。

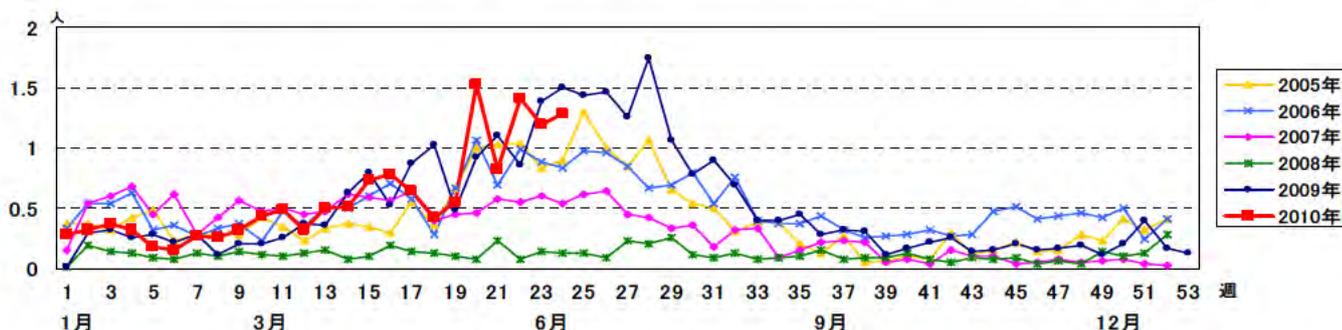
<水痘>

第24週は定点あたり2.26です。行政区別では、瀬谷区が7.00、緑区が5.80と高めです。

全国では2.21、県域2.46、川崎市1.64、東京都1.86です。

<伝染性紅斑>

第24週は定点あたり1.29です。過去5年間の中でも高めで推移しています。行政区別では、瀬谷区が7.33、泉区6.00、南区2.80、戸塚区2.50と高めです。全国では0.64、県域2.18、川崎市0.36、東京都0.61です。



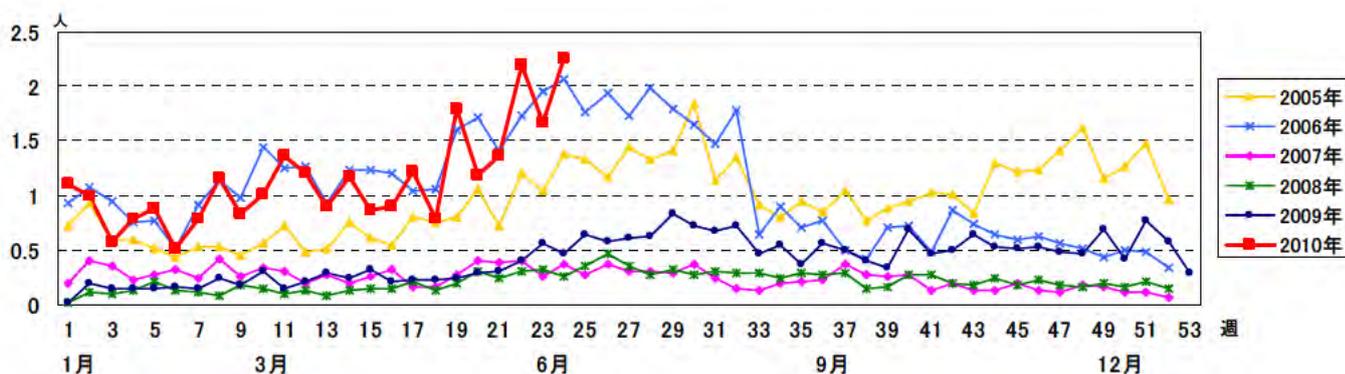
<ヘルパンギーナ>

第24週は定点あたり2.60です。行政区別では磯子区8.25が高めです。

全国では1.56、県域2.31、川崎市2.64、東京都1.90です。

<流行性耳下腺炎>

第24週は定点あたり2.25です。行政区別では、神奈川区6.00、泉区5.00、緑区4.60、旭区3.80、瀬谷区3.00が高めです。全国では1.51、県域2.01、川崎市0.82、東京都1.18です。過去5年でも高めに推移しています。



< 性感染症 >

性感染症は、産婦人科系の11定点、および泌尿器科・皮膚科系の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

5月は、4月に比べて全体としては横ばいです。性器クラミジアは男性12例、女性13例の報告がありました。性器ヘルペス感染症は、男性4例、女性17例です。尖圭コンジローマが男性9例、女性1例です。淋菌感染症は男性12例、女性2例です。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

< ウイルス検査 >

2010年6月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点48件(鼻咽頭ぬぐい液45件、ふん便3件)、眼科定点4件(結膜ぬぐい液)、基幹定点3件(咽頭ぬぐい液2件、髄液1件)でした。

患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎19人、下気道炎12人、ヘルパンギーナ5人、胃腸炎、手足口病、発疹症、伝染性紅斑各3人、眼科定点は流行性角結膜炎3人、急性出血性結膜炎1人、基幹定点は急性小脳失調症1人、麻疹1人、伝染性紅斑1人でした。

7月9日現在、小児科定点の上気道炎患者1人からヘルペスウイルス1型、1人からアデノウイルス(型未同定)、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA6型、眼科定点の急性出血性結膜炎患者からアデノウイルス37型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上下気道炎患者6人からコクサッキーウイルスA(4型5人、型未同定1人)、2人からヒューマンメタニューモウイルス、ヘルパンギーナの患者5人からコクサッキーウイルスA(4型4人、6型1人)、手足口病患者1人からコクサッキーウイルスA6型、伝染性紅斑患者2人からヒトパルボウイルスB19型、基幹定点の伝染性紅斑患者1人からヒトパルボウイルスB19型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

< 細菌検査 >

6月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの糞便が2件で起因菌は検出されませんでした(表)。基幹定点からは菌株受付が6件、定点以外の医療機関からは菌株が4件でした。そのうち、基幹定点から、腸管毒素原性大腸菌が2件(O6:H16、LT&ST産生およびO6:H-、LT&ST産生)、腸管病原性大腸菌O111:H12が1件、定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌O26、VT1およびO157、VT1&2が各1件、赤痢菌(*S.flexneri*)とパラチフスA菌が各1件 検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの21件で、A群溶血性レンサ球菌が17件から検出されました。その血清型はT1が5件、T4が1件、T6が1件、T12が1件、T25が1件、T28が5件、型別不能が3件でした。

百日咳疑いの検体受付が1件ありましたが百日咳菌は検出されませんでした。

基幹定点からリンパ節より分離された検体受付は1件で*Corynebacterium ulcerans*でした。

定点以外の医療機関から劇症型溶血性レンサ球菌感染症から分離された検体が1件あり、A群溶血性レンサ球菌で、その血清型はT13でした。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症から分離された検体の受付が1件ありバンコマイシン耐性腸球菌 (*Enterococcus faecium*) vanA遺伝子保有株でした。

また、細菌性髄膜炎より分離された検体受付は1件あり *Streptococcus suis* と確認されました。

表 感染症発生動向調査による病原体検査(6月) 細菌検査
感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	6月			2010年1～6月		
	小児科	基幹	その他**	小児科	基幹	その他**
菌種名						
赤痢菌			1		2	2
腸管病原性大腸菌		1			5	
腸管出血性大腸菌			2		2	14
腸管毒素原性大腸菌		2			2	
パラチフスA菌			1			1
サルモネラ				1		
不検出	2	3		9	42	

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	6月			2010年1～6月		
	小児科	基幹	その他**	小児科	基幹	その他**
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	5			19		1
T4	1			2		
T6	1			1		
T12	1			4		
T13			1			1
T25	1			1		
T28	5			7		
T B3264				1		
型別不能	3			3		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					2	
バンコマイシン耐性腸球菌			1			3
髄膜炎菌						1
<i>Streptococcus suis</i>			1			1
<i>Corynebacterium ulcerans</i>		1			1	
不検出	5			14		4

** 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[検査研究課 細菌担当]